

研究発表もうしこみフォーム

氏名：斯琴巴特尔

氏名のローマ字表記：SIQINBATEER (in passport)

所属：内蒙古大学蒙古学学院

専門分野：蒙古语言学

発表のタイトル：『綏遠旗志』の蒙漢対訳語彙「方言」について










発表要旨（600字～800字程度）：

漢語とモンゴル語の対訳語彙としては、元朝至元年間の「至元訳語」をはじめとして、明朝時代の「華夷訳語」（甲、乙、丙）、「北虜訳語」等々が知られている。こうした一連の「訳語」と呼ばれる語彙集の、おそらく最後に位置するものとして、清朝光緒33

（1907）年に公刊された『綏遠旗志』の「方言」に収録された蒙漢対訳語彙集がある。本発表では、この蒙漢対訳語彙集を学界に紹介し、その文献学的な特徴と、そこに収録されているモンゴル語の言語的な特徴を検討する。

「方言」のモンゴル語は、他の「訳語」と同様漢字で表記され、「天文」「時令」「数目」「地理」等の部門別に分類配列されている。他の「訳語」では、漢語にモンゴル語の訳を付しているのに対し、「方言」では、モンゴル語に漢語訳を付している。部門の数は、42と「訳語」類の中で最も多く、語彙項目の数は「盧龍塞略」（1490項目）に次いで、2番目に多く、1,027項目を数える。

「方言」でモンゴル語を表す漢字の表記方法の特徴としては、次のような点を指摘することができる：

1. 甲種本「華夷訳語」のような「小字」は用いられていない。
2. 「庫克（藍）」（) のように、女性語の k の文字は、k 音として表記されている：
3. 「倒部希（往下）」（) 「徳該都（上）」（) のように、母音間の γ/g が表記されている語は、文語の読音を表している可能性がある。
4. 「蘇太才（奶茶）」（) 「噶咱爾（地）」（) のように、破擦音の ts, dz が表記されている場合がある。
5. 「納楞（日）」（) 「薩楞（月）」（) 「烏年（乳牛）」（) 「古爾板（三）」（) のように、語末に n 音が表記されている場合がある。

発表では、このような「方言」のモンゴル語の時代的、地方的な特徴を提示する。